

基調講演

里山資源を生かした人材育成と女性の活躍 幸せな未来を森からデザインしよう

人材育成アカデミーローズレイン 代表 黒田 三佳



基調講演を行う黒田氏

黒田氏は東京都で生まれ育ち、大学卒業後は日本航空にて国際線に乗務。のちにデンマーク在任を経て、約20年前に山形県米沢市にIターンされ、山形大学にて里山と人材育成をテーマに修士号を取得。子育てをしながら人材育成事業を立ち上げ、企業、行政、医療機関等を対象にホスピタリティ、マナー、マネジメント、ハラスメント、コミュニケーションなど新人研修から管理職研修などの講師を務めるほか、地域の子どもたちの英語教育、家庭教育に携わる塾なども運営されています。また、自宅裏にある森1100坪を購入し、自身で森を管理しながら里山ソムリエとして森をワールドとしたイベントを企画するなど、多岐にわたり活躍されています。

里山ソムリエの黒田三佳と申します。

私は一度の旅がきっかけで、2度目に山形に来た時には移住していました。私の家の裏には5ha程の平地林が続いています。その一部を購入したところから私の「森に暮らす」が始まりました。山形県には縁もゆかりもありませんが、森の大好きな人が住むデンマークから広大な森のある山形に移住しました。

現在、国際交流協会の会長をしております。そこで、森をつくる森林組合の人、森が大好きな人、森をつくって地球を持続可能にする人たちのことを英語で何と言ったらいいかと考え、「Forestry Engineer」と、しました。Forestry Engineer、略して「FSFE」。幸せな未来を機能させるために森から始まるストーリーを描いていきましょう。これが今日のキーセンテンスです。皆さんとつながり、私ももっと森を広げていく活動をしていきたいと思えます。

デンマークから山形の米沢へ

デンマーク在任の時には森で子育てをしました。その後、一度の旅で魅せられていた、里山、山形県米沢市の南原に2001年に移住し、ヤギを飼い、子育てをしました。娘は現在28歳です。今は東京から私の親、夫の親を呼び寄せ、森の中に小さな家を建てて介護をしています。森は本当に自分の気持ちも支えてくれます。南原には知り合いはもちろん親戚も誰もいませんでしたが、森が裏にある、こんな素敵なお家で暮らしたいと思って移住しました。

デンマークで暮らしている時に、娘を森のようちえんに通わせました。その森のようちえんはフルタウさんという人がつくった世界で最も古い森のようちえんでした。今は里山の自宅の森で森のようちえんを主宰しています。森のようちえんの資料をつくって全国に配り、森のようちえんの時間と空間のつくり方をお話しています。

私の森と兼統公とのつながり

山形県の米沢は、上杉の城下町と呼ばれています。山形県は、私の暮らす場所も直江兼統公が移封となって新潟からやってきたところ。私の森と言っているところは、実は直江兼統公の菜園があった場所と言われています。私が移住した当時、裏の森は荒れはて、誰も足

を踏み入れています。ですが、実は、ここは、城下におさまりきれない原方(はらかた)と呼ばれる武士たちが半士半農(半分武士で半分農家)で暮らした歴史ある所でした。

さて、「かてもの」をご存知の方いらっしゃいますか? 「かてもの」とは、もしもの時に命を救ってくれる植物です。直江兼続公のあと、上杉鷹山公は、飢饉に備え「かてもの」という本を配り、80数種類の食べられる植物を教えました。この森には「かてもの」に登場する植物が今もたくさんあります。

勉強するなら家より森の中で

山形の森林というのは、だいたい山が多いのですが、私の森は平地林が続いています。デンマークの友人が訪れた時に、「ここで森のようちえんをしたらいんじゃないかな?」と言ったのは合点がいました。

デンマークの森は平地林です。デンマークは「谷間」という意味で、別名バンケーキと言われています。そして森に熊やヘビ、オオカミは出ません。驚いたことに蚊もいないんです。ですから、森のようちえんの研修にデンマークに行っても条件が全然違いますよね。私は日本の森の条件、日本の森の魅力を子どもたちに伝えたくて、ここで森のようちえんをしたり、英語教室をしています。英語教室には60人の生徒がいます。森に行つて遊



森の中で育つ子どもたち

んでいても、お母さんたちは文句を言わないんです。教室は森の中に広がり、森好きの子どもたちが育ち、森の中に黒板が付いています。ある時、子どもが「家の中で勉強するんだったら、森に行つたらいいんじゃない?」って。「何かいいアイデアはある?」って聞くと、「木の名前を(英語で)教えてよ。勉強になるよね」って。

「女性もできる」を見せることは大事

今日は女性活躍ということがテーマになっています。私は雇用機会均等法元年から少し経つた頃に就職をした世代です。でも、いつ



草刈り機で私の森を整備

も自分たちができることをやってきて、女性とか男性という意識があまりなかったです。私も除雪機はできる、草刈り機もできる、夫も料理や縫物もできるというのが普通でした。でも、里山に来た時には、女性で機械を使っているというのはすごく有名になりました。20年前です。アンコンシヤス・パイアスというのか、女性は機械が苦手と思われているかもしれませんが、意外とそうではなかったりします。機械のおかげでできることがあります。でも女性が少ない場所では「女性でもできるよ」ということを見せていくことは大切なかなと思います。

森から始まるライフスタイルを発信

私は里山ソムリエとして商標登録をして、いろいろな活動をしています。その活動は、里山の森に暮らし、里山の構成要素、人・自然・農作物・暮らし・風土・歴史・文化などの魅力発信とライフスタイルの提案です。森を守るということは、人々の暮らしを守るということ、そしてその先の安心、安全、幸せ、心地よさをつくっていくことなのかなと思っています。里山で暮らすためのスキルや必要な力の開発・実践、他業種とのコラボレーションによる里山の魅力を発信しています。生活様式のパラダイムシフトに向けた活動です。皆さんの周りには森がたくさんあると思いますが、そういったところに暮らす人を発掘することができればいいなと思います。自分の森を持ってみることは、やはりこれは、東京との二重生活ではできません。目の前のことを一つ一つやっていくのに時間が足りません。そのような中で山形大学で里山に関する論文を書いて修士号も頂戴しました。

「未来は幸せ」を森でデザインする

さあ、皆さん、今日は、「未来は幸せ」という仮説を立ててみませんか？森に関する課題はいろいろあると思います。悲しいこと、辛いこと、苦しいこともあるかもしれないけれど、森があるからこそ、森で働く人がいる

からこそ、未来は幸せという仮説を立てましょう。そして、デザインしましょう。デザインとは、私の定義は、「ときめいたり、ひらめいたりすることを自分事として行動していくこと」です。こういう人が一人でも増えたら、日本は、未来は、幸せになると思います。ときめきやひらめき、森とともに設計し機能させること。デンマークで暮らした時に山形に暮らすことを決心した私にとって、森は課題ではありません。デンマークの人は森が大好きです。森はデンマークの人にとって課題ではないです。みんな森に行きたいんで



森はときめきとひらめきを与えてくれる

す。デンマークの友人が訪ねて来ると一番最初に「三佳の森に行きたい」と言います。デンマークの人は朝起きるとまず森に行けるところに暮らすのが夢なんです。

私も山形に移住した時、家の裏の森に誰も行っていないし、熊が出るから行くなど言われました。でも入口ができる人と人が入ってきました。道ができる人と人が続いてきました。かつてその森は屋敷森として大切な森でした。かつての屋敷森を自分の手で再発掘し、再評価、再導入しました。ライフスタイルは江戸時代、明治時代、大正時代と変わっています。そこで今のライフスタイルに合わせた森の活用の仕方を実践しています。小さなことでも始めるといろいろなことが動いていくんです。

森に暮らすライフスタイル、1000人の人が1000坪の森を持ち幸せに暮らしたら、「That's 里山」。いいなと思います。

未来を持続可能にするために、森を守り、幸せな五十年後、百年後のために、今、私の目の前にいる皆さんがリーダーとして活躍してください。大切だと思えます。

人材育成とは「引き出す」こと

人材育成とは、十年後、二十年後、五十年後の幸せな未来をつくる人づくりでもあります。そのために、森づくり、森林を守っている

く、日本の国土の中でその森をどう守っていくかということは、一番大切なことだと思えます。

また、人材育成とは、幸せな未来をつくるコミュニケーションづくり、組織づくりだと思います。ときめきやひらめき、幸せな未来をつくるうと思うのは、一番小さな組織といったら、家族ですよ。家族、自分の夫、自分の親、自分の子ども。自分の夫が大好きだったら幸せな未来を望みます。どんな組織でも、自分のすぐ近くにいる人が好きで、大切に、協力できる、そういうことはとても大切ですね。そのためには今をしっかりと考えて何をするか。今日は、人材育成として、Educationというワードを入れさせていただきたいと思います。

Educationというものは、日本では「教育」と翻訳されることが多いです。Educationというものは、ラテン語からきている言葉で、「教育」ということではなくて、もっと高貴な意味があります。「引き出す」ということです。私も森に訪れた子どもから、その思いを引き出す、それが森のようちえんです。何かを教え込むことではありません。聞いてきたら、答える。その子の良さを引き出してきます。幸せな未来をつくるために、機能する人間関係、組織とは、それぞれがそれぞれの良いところを引き出すということが

とても大切だと思えます。人を成長させ、双方向に発展するコミュニケーションの秘訣、基本はいつもMMHH(M…認める、M…待つ、H…励ます、H…引き出す)の法則なんと言っています。相手を認めてあげるといふことです。認められると頑張ります。

プロとして機能するためには、やはり専門性と倫理観と表現と教養が必要だと話しています。この4つが大切なエッセンスです。教養というのは誰かをリスペクトできるということ。森に道ができていたら、ここを管理している人がいるんだということに想像



チェーンソーで丸太を切る学生たち

力を働かされることが教養です。表現は、言語と非言語で相手に対する敬意と感謝と思いを伝えることです。そして倫理観というのは、人の人権を大切にすることです。

資源を循環させる、森でのことづくり

大学との連携として、9月1日には山形大学建築デザイン学科の女子学生たちが私の森に集合して、チャップスを履いて、安全管理して、やまびこを運転して、丸太をチェーンソーで切りました。木の皮を剥いて、みんな大喜びで帰る頃には「森で暮らしたい、この丸太を家に持って行きたい」と言いました。その結果、山形大学でその丸太を二十本くらい引き取って、大学でも実践していくことになりました。

そして英語クラブでは、子どもたちが森で拾ったクルミを林業士の方が炭にしてくれて循環させています。森でのいろいろなことづくりです。

最後に、森を持っている人、森林組合の方の多くは畑も持っています。田んぼも持っています。つながっているんですね、それが、「That's SATOYAMA」。本当に里山とは森とも田畑ともつながる素晴らしい暮らしのある所だと思います。ぜひ、みなさん、私の「森に暮らす」に来てください。